

人はそれぞれの年齢に、その時にやらなくてはいけないことがあるような気がします。

赤ちゃんの時にも、三歳も…十七歳、三十三歳、四十二歳、五十七歳……の時にも、その時ならては、その時にしかできない大切なことがあるのだと思います。

逆に年齢などに関係なく、人は「将来のために」とか「過去を引き受けて」ではなく、「今」の衝動に従って生きる時にこそ、自らの力を存分に発揮し、また生きがいを感じる事ができるのでしょう。

一方は人生を貫いた、与えられたそれぞれの「今」の自分を生きる意味に関わることであり、もう一方は瞬間への輝きとしての私という価値に関する事なのではないでしょうか。どちらも「私」という存在がその時々々に志をもって生きることが大切であることを示してくれていると思います。

様々な時の節目に人は自己確認の作業をしますが、年が変わる年末年始——クリスマスからの聖なる十三日間——にも、たくさんの思いめぐらす作業がそれぞれの内面で行われたことでしょう。

三学期、しめくりと次なる時に向けての準備の中で、私たちは「大きくなった発表会」や「卒園」「進級」の祝祭の時を迎えます。大きくなった発表会ではクラスの家族毎にお話の世界を劇あそびにして楽しみます。クラスの持ち味や年齢の特徴を活かしながら、子どもたち一人ひとりのそれぞれらしさが表現できる場を作れたらと思っています。

年長の子どもたちは東寺の仏さまにお出合いし、絵画表現を通して自分の内にイメージするものを表出する体験をもったり、卒園にまつわる数多い作業に向かいながら、年長児の磨きをかけそして「あたらしい1年生」となる日を指折り数えていきます。

年中、年少の子どもたちは、新しい年度に向けて新たな目標を憧れのように抱きながら、立ち姿を変えていきます。「ぼくは～がしたい」「わたしは～みたいになりたい」…

一人ひとりが目的意志を身体の中に響かせながら、クラスやグループでの共属感情を子どもたちはふくらませていきます。

子どもたちがそれぞれの年齢とそしてひとつひとつの瞬間を生きいきと過し、次の時へと進んでいけますように！

そこに寄り添い、見守り、共にある私たち大人も、与えられたこの年をしっかりと受けとめ、また一瞬への出会いや出来事に瑞々しく向き合うことができますように！

3学期、そして今年もよろしくお願ひします。

園長 升光 泰雄